



I-OWA マンスリー・セミナー座談会より 中国と日本の将来をどう見るか

馬淵 治好氏、参加者のみなさま、岡本 和久
レポーター： 赤堀 薫里

参加者 | 中国国内を見ると、インフラ投資から内需へ変わっていくというような、商品の動きは変わってきていますか？

馬淵 | 長期的な視点で見た中国の根本的な問題は、生産設備が過剰なところですよ。今までは大量にインフラ投資をしてきた。設備投資を行い、出来た設備の操業度を維持したまま、安い労働力を武器にして輸出をしていた。量的にそのような形で経済をけん引していたというのが中国のやり方でした。ただ、だんだん賃金が上昇して従来のやり方ができなくなってきた。中国の実力からすると既に設備過剰です。設備過剰を一気に解消する外科手術的な方法は、設備廃棄。設備を廃棄するには、設備を持っている企業は潰れなくてはならない。もしくは操業度をかなりの勢いで低下させる必要が出てくる。すると失業が発生する。長期的には失業が発生しても、中国にとって必要な経済の方向である「内需で食べていく」ことを考えれば、長期的に中国人にとって必要とされる国内の産業に、余った労働力をシフトさせればいい。これは長期的にはいいけれど、短期的には失業が発生して、中国

政府がもたない恐れがある。

今中国がとっている政策は、ある程度の景気減速は容認しても、失速しないように需要を刺激する策。国内の金融緩和をして、AIIB（アジアインフラ投資銀行）を作った。これを積極的に活用し、あちこちの国





長期投資仲間通信「インベストラ이프」

に融資をして、中国のインフラを買ってもらう。海外のインフラ投資の場合、相手国と結ぶ契約書の中に、大概、雇用条項が入っている。中国の鉄道を買う契約の場合、「鉄道系列に採用する従業員の半分以上は中国人を雇ってください。」という条項が入っている。つまり失業対策なのです。そのようなことをやりごまかしながら、少しずつ設備廃棄をしていく方向に向かっている。もし上手くいけば外科手術ではないので、景気減速が長く続くことになる。ここから先 5 年間、中国経済の減速や、株価、元が下がってもおかしくないと思っている。よくマスコミの方から「馬淵さん、中国経済が持ち直すことが、世界の経済が持ち直す条件ですよ。」と、言われるが、ずっと悪くなると思っているのでそうは思わない。世界経済が持ち直す条件は、中国が悪いことが当たり前になり、それでもアメリカや日本が持ち直していくかどうかということです。僕は日本もアメリカもその力はあると思っている。

岡本 | 中国の生産力がずっと落ちていくとしても、どこか他の国で生産力が増えていくわけだから。誰かがどこかで需要を満たす生産力を持たねばならない。需要そのものが全部無くなるわけではないということでしょうね。

馬淵 | 中国人がいなくなるわけでもなく、中国の経済が消滅するわけでもない。また、中国は加工組立工場であるという面もあります。もちろん、中国の経済が減速するより加速する方が経済成長にとってはプラスですけど、中国を埋め合わせるという意味では、中国で悪いことが常態化することで別のところで生産が増える。しかも、中国が悪いと言っても、マイナス成長ではなく、7%→6%→5%と落ちていくだけなので。

参加者 | 人口の問題ですけど、日本全体の人口が減少している。これは労働者人口への影響だけでなく、生産したものを消費する人口も減少していくということです。世界的にもいろいろな影響がある。そういった観点で、人口と経済の関係についてコメントをお願いしますか。

馬淵 | 人口は長期的には重要であり、長期の経済の盛衰をかなり左右するものである。少子高齢は、様々な国にいろいろな問題を起こしうる。例えば、中国はすでに少子高齢化に入っていると言われる。15 歳～59 歳の人口をとると、恐らく一昨年位がピーク。去年は既に若い人の人口が減り始めている。中国の場合、人口の減少によって労働需給が逼迫し、賃金が上昇する。内需で食べていくとか、付加価値が高いモノ、ロケット等に移っていけるのか、非常に難しいでしょう。また、中国は社会保険がまだ未整備です。今、健康保険に加入していない人が、総人口の半分と言われている。年金未加入者が総人口の 7 割。そういうお年寄りが増えると、高齢者になった時に、年金もなく、病気になった時、医療費は全部自分で支払うことになる。となると、社会不安につながりやすい。社会不安を解消する為には、今から社会保険制度を整備しなくてはならないが、あれだけ人口



長期投資仲間通信「インベストライフ」

の多い国では、今から整えるのは無理な話。中国人寿保険に勝手に入ってくださいという話になっている。

日本もちろん社会保険は苦しいでしょうし、削減していかなくてはならない。人口が減るといことは、生産が落ちることと需要が落ちること両方がきてしまうわけです。日本の解決策としては、需要を外に求めざるを得ない。幸いにして東南アジア等、成長するエリアが日本の近くにあるので、そこに対して何を売っていくのか。日本の製品は全般的には過剰品質すぎると言われている。いらぬ機能がいっぱいついて値段が高い。3D のテレビはいらぬし、しゃべる冷蔵庫もいらぬ。

日本の高品質が生きる道は 2 つある。一つはインフラ。橋や道路、鉄道、発電所は、壊れたら最悪人が亡くなるので壊れては困る。日本のインフラは、少しお金が高くても、輸入したいというニーズはあるはず。日本の高品質なものは、道路や鉄道といったハードな部分だけでなく、ソフトも高品質だと言われている。ソフトにもお金を払おうという動きも出てきている。例えば鉄道は、時刻表通り走り、停車位置に停まる。車両もきれいで掃除が行き届き、点検もしっかりしている。ノウハウはどうしているのか。東京駅は新幹線が入るとあっという間に出てきます。清掃が 3 分位で済む。外国からは、大勢の視察が来ています。一番驚くのは、清掃の人は、どう見ても普通のおじさん、おばさんにしか見えない。どうやって普通のおじさんとおばさんを動機付けて、生き活きと楽しく仕事をさせているのか。また仕事の改善提案も彼らから出ているが、どういう仕組みでやっているのか。単にマニュアル通りに働いているわけではないのに、どうやって正確に仕事をしているのか。そういうノウハウを知りたいと、大勢の人が来ている。バンコクの地下鉄のプロジェクトを JR 東日本が引き受けたが、これは、運転士の教育を教えて欲しいわけです。ベトナムのバスターミナルの注文は、以前視察した時に多摩の沿線都市開発が非常に良かったので、名指しで東急電鉄にきた。バスターミナルや駅周辺の地域を経済発展させたい思いがあるため、バスターミナル駅から道路をどう敷き、どうやって住宅、病院、学校を配置して、商業施設をどう誘致するのか、そのノウハウを教えてもらいたい。そこにお金を払いたいのです。インフラ輸出を奨励するというのが一つ。また、パナソニックの美容家電、熱さまシート、めぐリズム等、日本の信頼できる日用品や食品も魅力的だと言われている。それらの共通点は、体に関係しているので、品質が良くなくては困ること。

日本の生きる道は、インフラや信頼される日用品の分野で海外に出て行くことです。もちろん国内のシルバー需要を掘り起こすことも必要。生産力の部分は、機械化にある程度置き換えていくしかない。昔は肉体労働の部分がロボットに変わっていったが、もしかすると頭脳労働の部分が置き換わる可能性もある。運転は肉体労働と頭脳労働の間だと思うが、自動運転の話も出ている。そのうち街中を車が運転手なしで走るかもしれない。最近資産運用の世界もロボットアドバイザーの話が出ている。ただ、人間が残る分野もあると思う。少ロット化して少人数で経済が回るようになる等、工夫の余地はある。楽観的な話ですけどね。人口の問題は大きいですが、解決策がないわけではない。大



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

きな流れとして、機械化と日本を如何に売っていくのか、工夫と努力が必要。
心配しているシナリオは、11月に渡米をし、日本株の運用が長いヘッジファンドや年金の友達と話をした際に、教育の問題を指摘された。知識がどうとではなく、日本人は元気も積極性もないと。少子高齢化についても、もう少し危機意識を持たないと駄目ですね。世界で戦える少数の人と企業は、日本から出て行ってしまふ。外に出て行けないどうしようもない人材と企業が残し、政府は外に出て行くわけにはいかないの、財政赤字の大きい政府と一緒に沈んでしまふというのが、一番悲惨なシナリオです。もう少し企業が、日本人の積極性を回復しないと辛い部分があるのかなと思います。

岡本 | 希望も懸念もあるということですね。今日もありがとうございました。